



Internet Initiative Japan

株主通信

2012年3月期 決算のご報告 2011.4.1 - 2012.3.31

株式会社インターネットイニシアティブ 証券コード: 3774

● 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

弊社は、当期にて設立20周年目を迎えました。日本の企業として、初のインターネットの商用サービスを手掛け、インターネットの技術基盤を確立し、現在に至るまで、サービス開発とその運用においてイニシアティブをとり続けております。インターネットは、産業経済から国の統治、暮らしに至るまでのあらゆる仕組みを変え続けている巨大な技術革新です。その加速度的な普及は、物理的な通信インフラを変え、新しい端末を生みながら、利用形態を刷新してきました。弊社は、インターネット接続サービスに始まり、革新的な基盤インフラの提示から現在のクラウド・コンピューティングに至るまで、技術力を最大の経営資源として事業を展開し、企業発展を続けてきました。今後も技術革新をリードしながら、事業の拡大、発展に邁進してまいります。



2012年3月期(2011年度)の連結業績は、東日本大震災、景気の低迷、世界的な金融不安など厳しい外部環境のなかで、売上高973億円(前年比18%増)、営業利益64億円(前年比53%増)、当社株主に帰属する当期純利益36億円(前年比14%増)と大幅な増収増益となり、中長期にわ

たる成長基盤確立との経営目標を達成することができました。2011年度の事業伸長は、主として、接続サービス、WANサービス、アウトソーシングサービス、システム運用保守等のストック売上が継続的に拡大したことによります。接続サービスは、お客様の広帯域利用の増大により総接続契約帯域が前年比約17%の伸びとなり、WANサービスも順調に拡大を続けています。アウトソーシングサービス、システム運用保守においては、クラウド売上が前年比約5倍の30億円超の規模に育ち、伸びを牽引しています。

2012年度の注力課題といたしまして、既存事業の継続的な拡大、発展に加えて、1)国際事業の展開加速、2)先行投資的事業の黒字化、3)新規技術開発、に取り組んでまいります。1)については、米国・中国でのクラウドサービス提供、設備拡充を進めており、また、アジア諸国での拠点の拡充、展開を始めています。2)については、ATM運営事業の黒字化が間近となっております。3)については、ネットワークの仮想化を実現するSDN(Software Defined Network)基盤の開発との新たな取り組みを開始しています。

2012年度も引き続き、中長期にわたる事業成長、拡大を確実にするための施策を具体化してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後も一層のご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

2012年6月

代表取締役社長 鈴木 幸一

連結業績ハイライト

(単位:百万円)

	実績			見通し	
	2011年3月期	2012年3月期	前年比	2013年3月期	前年比
営業収益(売上高)	82,418	97,315	18.1%増	107,000	10.0%増
営業利益	4,141	6,353	53.4%増	7,500	18.0%増
税引前当期純利益	3,834	5,976	55.9%増	6,900	15.5%増
当社株主に帰属する当期純利益	3,203	3,641	13.7%増	4,000	9.9%増
1株当たり当社株主に帰属する当期純利益(円)	15,808	17,964	-	19,735	-
1株当たり配当金(円)	2,750	3,250	+500	3,500	+250



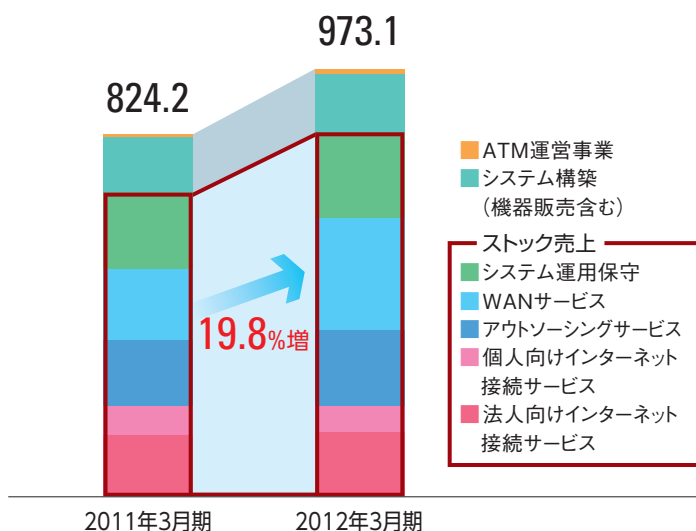
▶▶ IJグループの現状と成長戦略について
鈴木社長に伺いました。

Q1 2012年3月期の事業結果を どう評価されていますか。

A 連結業績は、売上高973.1億円、営業利益63.5億円
と想定通りの大幅増収増益となりました。
将来の成長に向けた様々な布石を着実に打てた
年度と評価しています。

クラウド・ATM運営事業などの新規サービス・ビジネス
の立ち上げは順調に進展し、黒字化を見通せる状況
になりました。

▶▶ スtock売上推移(前年比) (単位:億円)

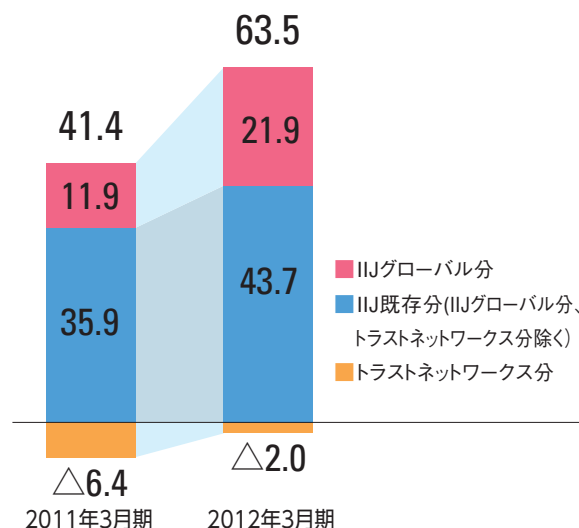


2012年3月期のstock売上は、2011年3月期の691.7億円から
19.8%増の828.8億円へ拡大

安定収益基盤であるstock売上は、インターネット接続サービス
における契約の広帯域化、企業の情報システムのアウトソーシング
需要継続、またIJグローバルによる売上寄与等により、堅調に継続増加

※stock売上: インターネット接続サービス(法人・個人)、アウトソーシングサービス、
WANサービス、システム運用保守を継続的に提供することで恒常的な
上が月次計上されるもの

▶▶ 会社別営業損益推移(前年比) (単位:億円)



●IJ既存分(前年比 21.5%増)
ネットワークサービスの売上総利益の増加等により
増益

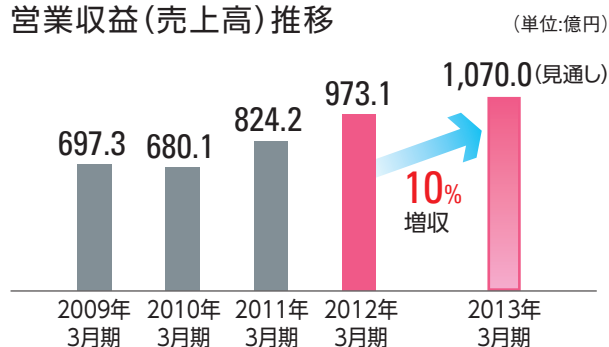
●IJグローバル分(前年比 83.7%増)
7ヵ月から通年寄与による増益影響

●トラストネットワークス分
ATM設置台数、利用件数の増加等により損失縮小、
黒字化間近

Q2 2013年3月期の業績見通しについてお聞かせください。

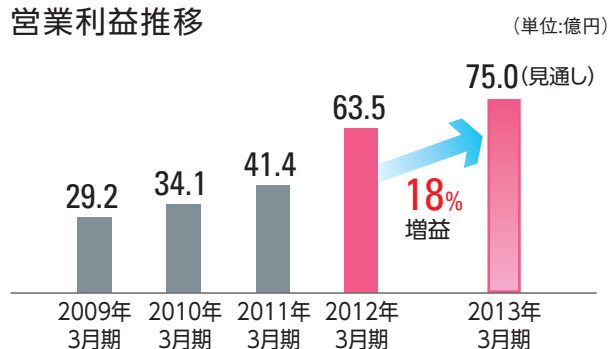
A 売上高1,070億円(前年比10.0%増)、営業利益75億円(前年比18.0%増)を目標としています。

営業収益(売上高)推移

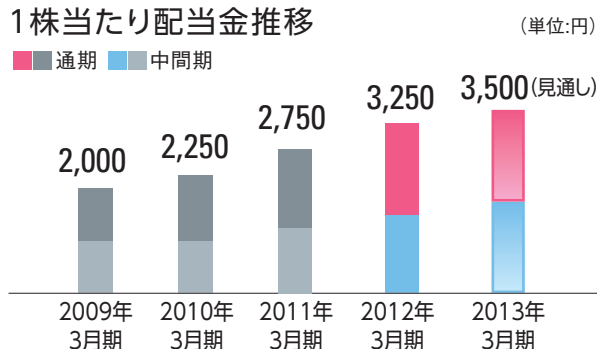


インターネット接続、アウトソーシングサービス等の従前からの売上基盤は堅調に伸長する見込みです。クラウドサービス「IIJ GIO」の2012年度売上は前年の31億円から70億円超へ伸ばす目標としています。国際事業の売上寄与も見込み、目標達成を目指します。利益面では、既存ビジネスの売上継続増加とクラウド・ATM運営事業での増益効果による利益率向上を見込んでいます。また、利益増加に伴い増配を見込んでいます。

営業利益推移



1株当たり配当金推移



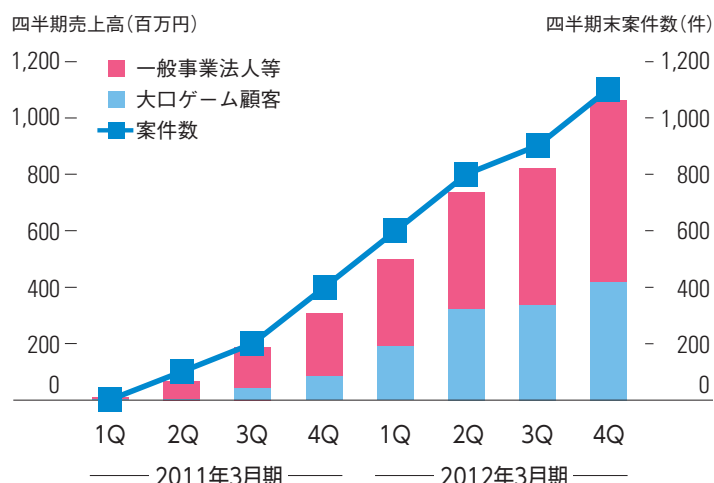
Q3 クラウドサービス「IIJ GIO」の進捗はいかがでしょう。

A 2012年3月末の導入数は約1,100件、顧客数は約700社、月額売上高は3.7億円と、事業基盤は着実に拡大しています。

お客様のご利用状況は全般的にまだ使い始めとのフェーズですが、取引規模が大きな案件も出てくるようになりました。

今後数年スパンでの更なる利用件数・取引ボリュームの拡大を期待しています。2012年度は、松江データセンターがお客様向けに稼働開始する予定です。また、2012年8月には、従来以上にお客様個別のカスタマイズニーズに柔軟に対応することが可能な「IIJ GIO 仮想化プラットフォーム VW シリーズ」の提供を開始します。

IIJ GIO売上高および導入案件数の推移



Q4 国際事業の展開についてお聞かせください。

A 国際事業は重点項目として注力しています。

国内のお客様から海外ネットワーク、サーバ運用等の案件ニーズが高まっており、シームレスに対応できる体制を整えていきます。2011年度は、中国・バンコクの拠点開設、米国・中国でのクラウドサービス提供準備を進めました。中国クラウドでは、中国最大手キャリアのチャイナテレコムと事業・販売提携いたしました。

また、2012年4月には、欧州・アジア・米国に拠点を持つ、日系企業向けのSI会社エクスレイヤを買収し連結子会社化しました。2012年度は、IIJエクスレイヤの豊富な海外案件実績をテコに海外クラウド等の国際展開を加速していきます。

IIJグループ海外拠点



Q5 今後の研究開発、技術分野について教えてください。

A 次世代クラウドの中心技術要素として世界的に注目されているSDN (Software Defined Network)の研究開発に取り組みます。

次世代クラウドの技術要素として世界的に注目されているSDN(Software Defined Network)の基盤開発に取り組んでいます。SDNとはネットワークの仮想化技術であり、サーバ仮想化技術と併用することで柔軟なクラウド環境の構築を実現します。このSDN基盤を開発する会社として2012年4月にストラトスフィアを設立しました。ストラトスフィアとは成層圏という意味で、クラウド(雲)を超える、クラウドを包括して制御するとの思いを込めています。ネットワーク仮想化市場をリードしていくことを目指し、早々にサービスに適用していくべく進めていきます。



株式会社ストラトスフィアの概要

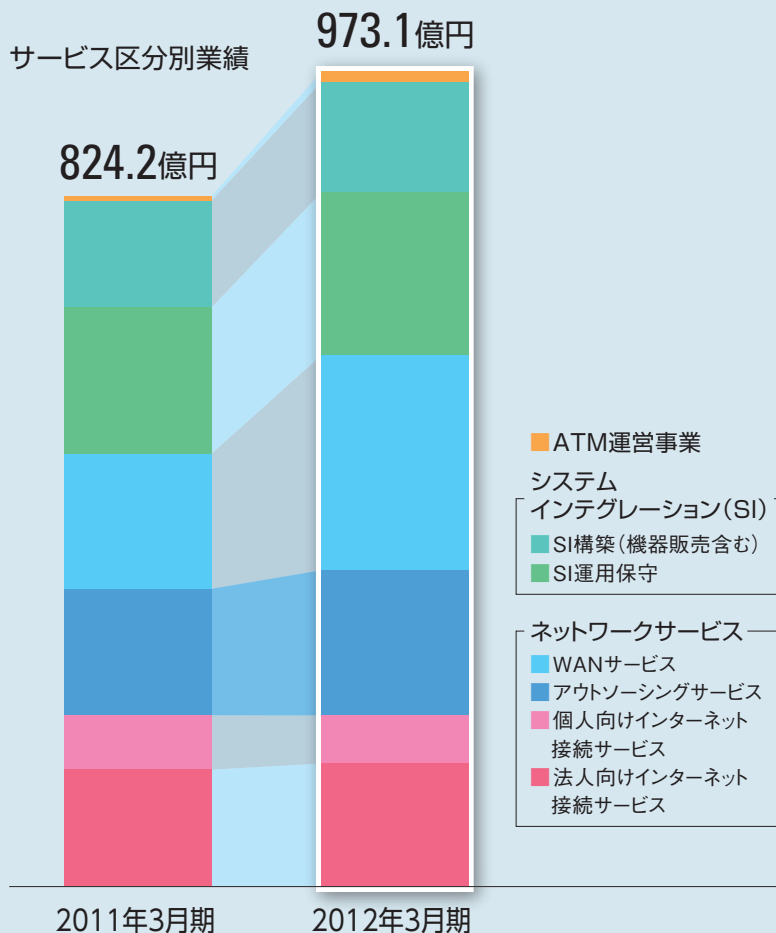
Stratosphere

設立日	2012年4月5日
資本金	100百万円
株主構成	IIJ 50%、ACCESS 50%
従業員数	11名
業務内容	クラウドコンピューティング環境を統合制御する基盤ソフトウェアの研究開発

● 2012年3月期 連結業績について

営業収益(売上高)は、2010年9月に子会社化したIJJグローバルの増収効果、ネットワークサービスの順調な伸長等により前年比18.1%増の973.1億円となりました。ネットワークサービス売上高は法人向けインターネット接続サービスの契約帯域増加等により前年比22.7%増の634.1億円となりました。SI及び機器販売の売上高は、中小型案件の積み上げ、クラウドサービス「IJJ GIOコンポーネントサービス」の継続増加等により、前年比7.7%増の325.8億円となりました。

営業利益は、IJJグローバルの利益寄与、ネットワークサービスの売上総利益の増加、ATM運営事業の損失縮小等により、前年比53.4%増の63.5億円となりました。



● サービス区分別業績について

※()は前年比の増減

● ネットワークサービス

売上高 634.1億円 (22.7%増)

売上総利益 134.2億円 (34.5%増)

● 法人向けインターネット接続サービス

売上高 147.1億円 (5.0%増)

広帯域IPサービス等の大口案件継続獲得等により売上増加

● 個人向けインターネット接続サービス

売上高 57.2億円 (12.4%減)

旧サービスの継続解約、契約移行により減収

● アウトソーシングサービス

売上高 173.2億円 (15.2%増)

データセンター、IJJ GIOホスティングパッケージ、セキュリティサービス等の各サービスの売上伸長

● WANサービス

売上高 256.7億円 (59.4%増)

IJJグローバルに係る増収影響、IJJでの新規案件獲得等により売上増加

● システムインテグレーション(SI)

売上高 325.8億円 (7.7%増)

売上総利益 66.2億円 (6.6%減)

● SI構築(機器販売含む)

売上高 131.1億円 (3.0%増)

中小規模案件を継続獲得しつつも大口案件不在により前年比同水準

● SI運用保守

売上高 194.7億円 (11.2%増)

IJJ GIOコンポーネントサービスの継続受注、FXシステム案件の獲得等により売上増加

● ATM運営事業

売上高 13.2億円 (156.3%増)

売上総損失 0.6億円 (2011年3月期: 4.8億円)

ATM設置台数、利用件数の増加等により損失縮小、黒字化間近

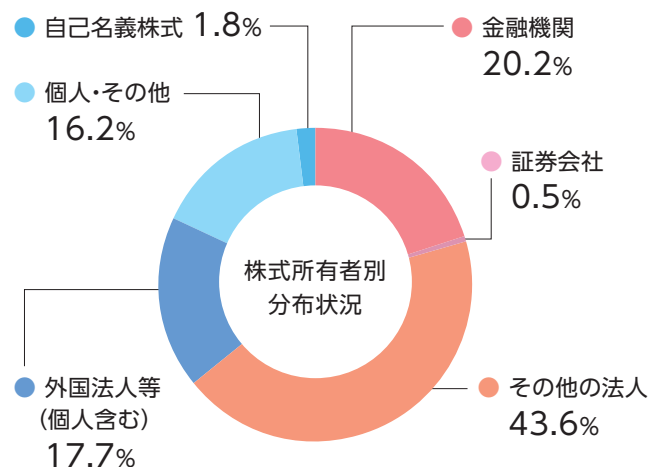
● 株式情報 (2012年3月31日現在)

発行可能株式総数	377,600株
発行済株式総数	206,478株
株主数	4,479名
大株主	

株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
日本電信電話株式会社	50,475	24.4
鈴木幸一	13,032	6.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	11,473	5.6
伊藤忠商事株式会社	10,430	5.1
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社	10,200	4.9
THE BANK OF NEW YORK MELLON AS DEPOSITARY BANK FOR DEPOSITARY RECEIPT HOLDERS(※)	7,674	3.7
第一生命保険株式会社	6,365	3.1
MORGAN STANLEY & CO. LLC	6,208	3.0
GOLDMAN SACKS & CO. REG	4,763	2.3
株式会社みずほコーポレート銀行	3,560	1.7

(※) THE BANK OF NEW YORK MELLON AS DEPOSITARY BANK FOR DEPOSITARY RECEIPT HOLDERSは、預託銀行にて当社の株式を預託し、当社米国預託証券を発行するにあたっての預託名義であり、同所有株式数は、発行されている当社米国預託証券に相当する預託株式数です。

(※) 持株比率は発行済株式総数(自己株数3,794株を含む)で計算しております。



● 会社概要 (2012年3月31日現在)

会社名	株式会社インターネットイニシアティブ
本社所在地	〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング
設立年月日	1992年12月3日
資本金	14,295百万円(単体)
連結従業員数	1,923名
事業内容	インターネット接続、アウトソーシング、WANサービスの提供、ネットワークシステムの構築及び保守運用、通信機器の開発及び販売、ATM運営事業
国内支社・支店	関西支社、名古屋支社、九州支社、札幌支店、東北支店、北陸支店、中国支店、横浜営業所、豊田営業所、沖縄営業所

Webサイト「投資家の皆さまへ」のご案内

IIJの事業内容や最新情報についてご興味をお持ちの株主・投資家の皆様は、ぜひIIJのホームページをご覧ください。決算説明資料や開示資料のほか、プレスリリースやFAQ集等のコンテンツを充実させております。



URL
はこちら

<http://www.ij.ad.jp/ir/>

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂 7-10-11 TEL 0120-232-711(通話料無料)

特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-8701 東京都府中市日鋼町 1-10 TEL 0120-176-417(通話料無料)
公告方法	電子公告により行う
公告掲載URL	http://www.ij.ad.jp/ ※ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に公告いたします。

●ご注意 株主様の住所変更その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式会社インターネットイニシアティブ

TEL: 03-5259-6500 E-mail: ir@ij.ad.jp
URL: <http://www.ij.ad.jp/ir/>

上場証券取引所

●東京証券取引所市場第一部 2006年12月上場(証券コード:3774)
●米国ナスダック 1999年8月上場(ティッカーシンボル:IIJ)